

令和元年度事業報告

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

本県の畜産は、各畜種とも全国屈指の地位にあり、県農業産出額の約6割を占めているなど、裾野の広い関連産業を含めて、地域経済の活性化に重要な役割を果たしている。

一方、全国的な傾向として、家畜飼養者の高齢化等により、各畜種とも農家戸数の減少傾向が続いている。

肉用牛については、平成28年以降（本県は平成29年（農林水産省畜産統計）、子取り用雌牛飼養頭数は増加に転じたものの、高水準を維持していた肉用子牛価格が元年度末には大幅に下落し、繁殖経営の収益性が悪化している。肥育経営についても枝肉価格の下落により一層厳しい状況となっている。

酪農については、本県を含めて都府県における生産基盤の縮小に歯止めがかからず、令和元年度の都府県生乳生産量は前年度対比で1.3%の減少が見込まれている。

平成30年度におけるTPP11及び日EU・EPAの発効に加え、令和2年1月1日には日米貿易協定が発効し、今後の牛肉等畜産物の輸入増大が懸念されていた中、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行（パンデミック）により、インバウンド（訪日外国人客）の激減等に伴う和牛需要の著しい縮小をはじめとして、我が国の畜産に重大な影響が現れている。

新型コロナの問題が起こる前に、国は、総合的なTPP等関連政策大綱を改定し、各種の体質強化対策に加えて、和牛・乳用牛の増頭・増産対策としての増頭奨励金の新設など、特に中小規模農家に手厚い支援措置を講じたが、国内での新型コロナウイルス感染拡大を受けて、新たな経済対策を打ち出してきている。

このように、年度末に畜産経営を取り巻く環境が厳しさを増す状況となったものの、令和元年度については、年度当初に計画した事業に加え、アフリカ豚熱（ASF）の野生動物を介した養豚農場内への侵入を防ぐための防護柵等の整備や、台風第19号により自給飼料が収穫不能等になった生産者の経営継続を図るための代替粗飼料の確保支援など、国が新たに創設した事業等にも取り組んだ。

<重点事項>

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導の実施
- 2 地域畜産をけん引する収益性の高い経営体の育成推進
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の的確な実施
- 4 家畜人工授精用凍結精液等の安定供給及び高度利用の推進
- 5 登録制度を活用した家畜の遺伝的能力の向上
- 6 自衛防疫意識の啓発と地域ぐるみのワクチン接種推進
- 7 高い精度で安定した生乳検査の実施
- 8 第15回全日本ホルスタイン共進会出品対策の推進

I 実施事業

1 継続事業1

畜産振興を目的として、経営の改善・生産技術の向上、経営体の育成、家畜改良の推進、家畜衛生の向上及び畜産物の安全確保、調査及び情報提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に係る事業を実施した。

<経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業>

(1) 畜産生産基盤育成強化事業

[県委託：5,298千円]

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行った。

ア 畜産経営体支援指導研究会 1回

イ 畜産経営技術の総合支援指導

(ア) 個別支援指導の実施 延べ175件

① 経営診断に基づく改善指導 8件

② 経営管理技術指導 38件

③ 生産技術指導 77件

④ フォローアップ指導 52件

(イ) 地域セミナーの開催 5回

ウ 畜産経営情報の提供

ホームページに情報掲載(随時)

(2) 畜産特別資金等推進指導事業

[中畜補助：4,794千円]

畜産特別資金借入者の経営を改善するため、関係機関・団体で組織する「畜産特別資金岩手県支援推進協議会」による農家指導等を行った。

ア 融資機関への指導 22回

イ 経営改善計画作成、見直し及び達成に係る指導

(ア) 見直し指導 12戸、3回

(イ) 達成指導 34戸、38回

ウ 借入者の負債残高等経営改善進捗状況調査

8融資機関、79戸(前年度対比6戸減：主に繰上償還によるもの)

エ 借入者の経営改善計画の定期的実績点検調査

55戸(前年度対比3戸増)

(3) 地域畜産支援指導等体制強化事業

[地全協補助：13,908千円]

地域畜産の安定及び高度化を図るため、国及び県の主要な畜産振興施策を補う各種事業を実施した。

ア 畜産経営の支援体制強化事業

- ・ 経営診断指導（コンサルティング）175戸、地域セミナー5回ほか
- ・ 乳質改善指導 326戸（ミルクシステム診断に合わせて実施）
- ・ 乳用牛群検定推進に係る成績取りまとめ等 14検定組合
- ・ 研修会及び会議等への参加及び情報提供等 9回
- ・ いわたの酪肉繁殖性向上研修 1回

イ 地域畜産の活性化に資する事業

- ・ 県域及び地域の家畜共進会支援 40地域
- ・ 畜産関係情報の提供及び普及啓発 要覧作成、ホームページ更新（随時）

ウ 馬事普及啓発の推進体制強化事業

- ・ 競馬場（盛岡）における畜産フェア 畜産物加工品配布 400人分
- ・ 競馬冠レース優勝者への副賞（いわて牛）授与 2回
- ・ 馬事イベントへの支援（表彰） 2回（流鏑馬大会、馬力大会）

（4）畜産・酪農生産力強化対策事業（家畜生産性向上対策）

[中畜請負：324千円、中畜委託：210千円]

家畜遺伝能力の最大限の発揮による生産性向上を図るため、生産性に係るデータの収集・分析と技術指導を実施した。

- ・ 酪農経営 4戸
- ・ 肉用牛経営（繁殖）2戸

（5）ミルクシステム診断事業

[独自：5,807千円]

酪農経営における収益性向上のため、ミルクシステム診断及び搾乳指導等を実施した。

- ・ ミルクシステム診断 322基（前年度対比127基減）
- ・ バルククーラー点検 311基（前年度対比80基減）

※ 前年度対比減の理由は、搾乳機器メーカーにおける事業需要の増大（クラスター事業等）により、メーカー側診断職員の対応が困難となったため。

（6）粗飼料確保緊急対策事業

[機構補助：124千円、預り補助金：963千円]

令和元年台風第19号により自給飼料が収穫不能等になった生産者の経営継続を図るため、代替粗飼料の確保に対して支援を行った。

- ・ 代替粗飼料購入補助（1kg当たり5円）約192t
- ・ 対象市町：一関市 19戸、雫石町 1戸、山田町 1戸

<担い手の強化・育成等に係る事業>

（7）肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策）

[機構補助：7,395千円、預り補助金：71,897千円]

肉用牛経営の安定・強化のための事業を実施した。

ア 肉用牛生産基盤強化対策

- ① 中核的担い手育成増頭推進
繁殖雌牛増頭への奨励金 7農協、229頭（前年度対比84.2%）
- ② 遺伝的多様性に配慮した改良基礎確保
繁殖雌牛導入等への奨励金 4農協、14頭
- ③ 優良繁殖雌牛導入支援
優良雌牛導入等への奨励金 6農協、108頭（前年度対比92.3%）
- ④ 肉用牛ヘルパー推進
肉用牛ヘルパー利用の推進 5組合
- ⑤ 肉用牛振興推進指導
①から④の円滑実施のための指導等

イ 地域の特色のある肉用牛振興対策

- ① 地方特定品種の振興
 - ・ 特徴ある牛肉生産等 1農協、12集団
 - ・ 計画出荷対策 1農協、340頭
- ② 山振地域における肉用牛振興
 - ・ 優良子牛適正出荷推進 1農協、2,268頭
- ③ 地域の特色ある肉用牛生産推進指導
①から②の円滑実施のための指導等

<地域が連携した畜産振興等に係る事業>

(8) 畜産クラスター機械導入事業（窓口団体事務）

[中畜委託：4,307千円]

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の窓口団体としての事務を行った。

- ・ 対象 16の畜産クラスター協議会
 - ・ 要望額 279,110千円（機械110台）
 - ・ 配分額 275,229千円（機械109台）
 - ・ 配分率 98.6%
- 金額は補助金ベース（機械価格の1/2）

主な導入機械

機 械 名	価 格	機 械 名	価 格
コンビネーションベラー	25,500千円	ホイルローダー	4,800千円
フォーレージハーベスター	24,429千円	TMRミキサー（牽引式）	4,500千円
自動給餌器	14,600千円	カッティングロールベラー	4,500千円
細断型ホールクロップ収穫機	6,450千円	堆肥運搬車（特装）	4,100千円
トラクター	5,000千円	ミキサーフィーダー（牽引式）	3,397千円

- ・ 機械導入状況調査（平成29年度導入分）
7協議会 7台

(9) 畜産経営体生産性向上対策事業（ICT化等機械装置等導入事業）

[中畜委託：544千円]

肉用牛経営及び酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等に資する機械装置導入（リース）について、普及啓発を実施した。

- ・ 説明会開催 1回
- ・ 普及対象 6応援会議

(10) 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（労働負担軽減対策）

[中畜委託：752千円]

酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等を推進するため、機械装置の導入（リース）及び導入される機械装置と一体的な施設の整備について、普及啓発を行った。

- ・ 説明会開催 1回
- ・ 普及対象 6応援会議

(11) 畜産クラスター全国推進事業（改善効果調査）

[中畜請負：150千円]

畜産クラスターの効果を検証するため、事業取組経営体を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 1戸

(12) 畜産クラスター全国推進事業（全国実態調査）

[中畜請負：800千円]

畜産クラスターの取組を推進するため、先進的経営体等を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 10戸

<家畜改良の推進等に係る事業>

(13) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛改良増殖推進事業：飼養管理技術の向上対策）

[事業団委託：56千円]

一般社団法人家畜改良事業団と牛群検定組合との間で行われる事務手続きに係る窓口業務を行った。

3検定組合

(14) 乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業

[県委託：510千円]

乳用牛群検定で得られたデータを有効活用するため、情報を収集・分析し、検定組合への提供等を行った。

巡回指導 14検定組合

(15) 馬の改良増殖推進事業

[地全協補助：1,520千円]

農用馬の改良及び生産振興を図るため、奨励金の交付等を行った。

- ア 優良種雄馬繁殖奨励
種付奨励金 種雄馬 4頭
種付頭数 27頭
交付額 360千円
- イ 子馬生産奨励
生産奨励金 種雌馬 30頭
交付額 1,158千円

<家畜衛生の普及推進等に係る事業>

(16) 家畜防疫互助基金支援事業

[機構補助：3,097千円]

口蹄疫、豚熱（CSF）等発生時の経済的損失を、生産者が互助補償する体制整備のため、互助基金制度の周知と加入促進を行った。

- ア 情報提供 1回
- イ 周知巡回 4農協
- ウ 加入実績（括弧内は加入率）
 - 乳用牛 535戸（60.9%）、33,609頭（80.0%）
 - 肉用牛 2,720戸（62.4%）、70,122頭（79.1%）
 - 豚 54戸（51.4%）、340,659頭（84.7%）

(17) 家畜防疫・衛生指導対策事業

[中畜補助：2,421千円]

地域における自衛防疫活動を推進するとともに、農場HACCP認証の取得に向けた取組を支援した。

- ア 地域自衛防疫推進
推進会議 2回、防疫演習 4回
- イ 地域疾病対策
慢性感染症対策 牛白血病 1戸
- ウ 地域農場HACCP認証支援
構築指導 1戸

(18) ASF侵入防止緊急支援事業

[機構補助：251千円、預り補助金：314,887千円]

アフリカ豚熱（ASF）の野生動物を介した養豚農場内への侵入を防ぐため、防護柵等の整備等をした経費への補助を行った。

対象農場：61経営体 95農場

(19) 馬飼養衛生管理特別対策事業

[中畜補助：698千円]

馬の飼養環境の脆弱化による飼養衛生管理技術レベルの低下を防ぐため、衛生管理に係る講習会の開催等を行った。

ア 委員会等の開催

委員会 1回、講習会 2回

イ 実態調査

82戸

(20) 育成馬等予防接種推進事業

[中畜補助：176千円]

馬伝染性疾病の発生を防止するため、計画的な予防接種（日本脳炎、破傷風及び馬インフルエンザ）を推進した。

日本脳炎 24頭、破傷風混合3種 29頭、馬インフルエンザ 30頭

(21) 馬伝染性疾病防疫推進対策事業

[中畜補助：926千円]

馬インフルエンザ及び馬鼻肺炎の防疫対策として、農用馬等へのワクチン接種を推進した。

馬インフルエンザ 86頭、馬鼻肺炎 24頭

(22) 牛疾病検査円滑化推進対策事業

[農水省補助：1,344千円、預り補助金：9,750千円]

死亡牛の適正な処理とBSE検査の円滑な実施を推進するため、処理に要する費用への補助を行った。

96か月齢以上の死亡牛及び起立不能等 1,143頭

<技術研鑽・生産意欲増進等に係る事業>

(23) 家畜共進会開催事業

[県補助：1,250千円、独自：1,189千円]

県内畜産農家の家畜改良意識の向上と相互研鑽の場を提供するため、岩手県畜産共進会として、全県を範囲とする畜種別の共進会を開催した。

部 門	期日	出品頭数	会 場
黒 毛 和 種	9月 4日	71頭	JA全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種	9月 5日	64頭	同上
日 本 短 角 種	9月 6日	37頭	同上
馬	9月12日	12頭	馬っこパーク・いわて
肉牛（黒毛和種）	11月 9日	44頭	株式会社いわちく

<畜産に係る調査、情報収集及び情報提供等に係る事業>

(24) 「岩手の畜産」発行事業

[独自：1,415千円]

畜産農家及び畜産関係機関・団体に、畜産経営に関する有用な情報を提供するため、会報「岩手の畜産」を発行した。

年6回奇数月発行 1回当たり発行部数 1,340部

(25) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

[畜産近代化リース協会委託：1,423千円]

畜産近代化リース協会貸付事業により導入された施設・機械の適正利用を確保するため、物件確認と管理状況調査等を行った。

調査物件数 110件、リース事業周知 16回

(26) 地域連携支援事業

[公庫委託：91千円]

畜産経営の改善に資するため、会議等において、公庫資金に係る情報を提供し、活用を推進した。

(27) 畜産技術指導促進事業

[独自：270千円]

研修会、会議、共進会等において、畜産技術情報の提供等を行った。

会議等 9回

(28) 図書支援事業

[独自：386千円]

畜産に関する知識・技術の普及向上を図るため、公益社団法人中央畜産会が発行する月刊誌「畜産コンサルタント」等の書籍の斡旋配布を行った。

畜産コンサルタント 375部、一般書籍 19部

2 継続事業2

肉用牛肥育経営安定対策事業

(1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業

[機構補助：1,778,086千円、生産者等：580,756千円]

第3業務対象年間（平成28年4月1日～平成30年12月29日）終了時の肥育安定基金残高（2,358,842千円）について、基金拠出者への返戻（無事戻し）を実施した。

(2) 肉用牛肥育経営安定交付金制度事務管理運営事業

[預り補助金：99,458千円、生産者負担金：280,636千円、
機構委託費：13,156千円、手数料：13,288千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、月ごとに肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、差額の9割を補填金として交付するなどの事務を行った。

ア 肥育牛安定基金造成

品種区分	生産者負担金	基金造成単価	備考
肉専用種	76,518千円	6,000円	負担割合 生産者のみ
交雑種	179,792千円	17,000円	
乳用種	17,024千円	19,000円	
日本短角種	7,302千円	6,000円	
計	280,636千円		

イ 補填金交付

品種区分	対象頭数	交付額※
肉専用種	3,063頭	84,119,646円
交雑種	1,696頭	12,506,450円
乳用種	720頭	32,557,354円
日本短角種	69頭	3,428,175円
計	5,548頭	132,611,625円

※交付額は、農畜産業振興機構からの預り金99,458千円を含む。

[補填金発動状況 (金額は1頭当たり交付金額)]

(単位：円)

月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種	月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種
4	-	-	42,722.1	-	10	17,199.0	15,271.2	48,722.4	49,683.9
5	-	-	30,806.1	-	11	-	356.4	53,726.4	-
6	-	-	31,029.3	-	12	27,387.9	-	63,042.3	-
7	-	-	35,702.1	-	1	-	-	47,339.1	2,641.5
8	46,641.6	-	26,905.5	-	2	40,859.1	24,121.8	39,319.2	42,546.6
9	18,851.4	-	28,826.1	-	3	128,314.8	116,715.6	54,562.5	-

ウ 事業推進

担当者会議開催 1回

エ 事務再委託先 (10団体)

全国農業協同組合連合会岩手県本部、一般社団法人岩手県配合飼料価格安定基金協会、新岩手農業協同組合、岩手中央農業協同組合、花巻農業協同組合、岩手ふるさと農業協同組合、岩手江刺農業協同組合、いわて平泉農業協同組合、大船渡市農業協同組合、岩手花平農業協同組合

(3) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業

[県等補助：-千円]

日本短角種の負担金(積立金)単価が肉専用種の負担金(積立金)単価と同額であったため、事業発動は無かった。

また、第3業務対象年間（平成28年4月1日～平成30年12月29日）終了時の肥育安定基金残高（17,389千円）について、助成金拠出者（県、市町、JA）への返戻（無事戻し）を実施した。

3 継続事業3

家畜自衛防疫事業

[農水省補助：20,415千円、独自：205,486千円]

(1) 家畜生産農場衛生対策事業

[農水省補助：20,415千円]

家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進した。

※ 括弧内は前年度対比

ア ヨーネ病防疫推進

自主とう汰奨励金 8戸（88.9%）43頭（179.2%）

イ 伝染病の発生・流行防止対策

アカバネ病予防接種 44,524頭（97.5%）

ウ 牛白血病対策

清浄化推進農場抗体検査 6戸158頭（309.8%）

エ 牛ウイルス性下痢・粘膜病対策

自主とう汰奨励金 6戸11頭（137.5%）

ワクチン接種 6戸437頭（98.9%）

(2) 家畜自衛防疫推進・支援事業

[独自：205,486千円]

ア 予防接種推進事業

家畜伝染性疾病の発生を予防するため、地域ぐるみのワクチン接種を推進した。

ワクチンの種類	頭数
牛5種混合（生）	9,919頭（178.2%）
牛5種混合（不活性）	5,670頭（92.3%）
牛5種混合（生）+ヘモフィルス	13,049頭（73.5%）
牛6種混合（生・不活性）	7,190頭（102.3%）
牛6種混合（生）	3,931頭（153.7%）
牛ヘモフィルス	7,889頭（177.5%）
豚丹毒（生）	70,785頭（88.4%）
豚丹毒（不活性）	45,890頭（105.7%）

※ 括弧内は前年度対比

イ 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

家畜伝染性疾病の発生による被害を最小限とするため、初期の迅速な防疫活動に要する経費に補助を行った。

対象疾病	件数	補助金額
牛ヨーネ病	49件 (163.3%)	2,576千円 (169.5%)
牛ウイルス性下痢・粘膜病	12件 (200.0%)	2,475千円 (225.6%)
牛サルモネラ症	2件 (100.0%)	1,201千円 (157.6%)
合計	63件	6,252千円

※ 括弧内は前年度対比

II その他事業

1 その他事業1

家畜人工授精用精液流通調整事業

[独自：81,997千円]

本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、サブセンターを通じて、家畜人工授精用凍結精液等の供給を行った。

※ 括弧内は前年度対比

(1) 凍結精液等の供給

ア 凍結精液 103,777本 (95.1%)

内訳：肉用牛 67,304本 (97.1%)、乳用牛 36,473本 (91.5%)

イ 受精卵 612個 (130.5%)

内訳：肉用牛 553個 (133.9%)、乳用牛 59個 (105.4%)

ウ 液体窒素 54,247kg (101%)

(2) 経営効果の高い精液の利用推進

家畜人工授精担当者の知識・技術の研鑽と農家への助言・指導力の向上等を目的として、会議等を開催した。

ア 事業推進会議 1回

イ 種雄牛情報提供会議 1回

ウ 県外視察研修 1回

(3) 供給精液の受胎状況調査

授精技術の検証及び受胎率の向上等を目的として、供給精液の受胎状況調査を行った。

2 その他事業2

家畜登録事業

[独自：46,428千円]

本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進した。

※ 括弧内は前年度対比

(1) 家畜登録等の件数

ア 乳用牛 9,738件 (102.3%)

内訳：血統登録 5,580件、牛群審査 1,278件、牛群検定成績証明 762件、移動・
その他 2,118件

イ 豚 3,282件 (108.4%)

内訳：種豚登録 783件、子豚登記 2,049件、移動その他 445件、農場認定 5件

(2) 登録関係研修会等への参加

研修会等への参加により、登録関係実務能力の向上を図った。

・ 令和元年度東北地区登録委員研修会 (ホルスタイン種)

令和元年7月22日～23日、福島県、受講者 5名

・ 冬期登録事務担当者会議 (ホルスタイン種)

令和2年1月30日～31日、東京都中野区 出席者 1名

3 その他事業3

生乳検査事業

[独自：114,131千円]

東北地域の農業協同組合等からの委託又は依頼を受けて、生乳取引等に係る生乳検査を実施した。

※ 括弧内は前年度対比

(1) 検査実績

ア 生乳取引関係 513,125,164kg (97.6%)

イ 牛群検定関係 513,112件 (99.5%)

ウ 依頼試料乳

(ア) 成分及び体細胞数検査 27,667件 (91.9%)

(イ) 細菌数検査 15,669件 (106.6%)

(2) 検査項目

ア 成分

脂肪率、蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素

イ 体細胞数

ウ 細菌数

4 その他事業4

(1) 研修事業

関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と協会における業務遂行能力の向上を図った。

ア 職員技術研修事業

[独自：145千円]

中央畜産技術研修会等への派遣 7回

イ 北海道・東北ブロック畜産協会職員研修事業

[独自：83千円]

福島県において開催 参加者数34名

(2) 畜産理解促進事業

競馬場等、市民が集う場所・催事において、畜産物の配布等を行い、畜産への理解を促進し、併せて、地方競馬の活性化を支援した。

ア 岩手競馬支援特別対策事業

[独自：310千円]

(ア) 冠レースでの会長賞授与

第19回ハーベストカップ（10月・盛岡）及び第18回寒菊賞（12月・水沢）

(イ) ファン感謝デーにおける県産畜産物加工品配布

400個配布（10月・盛岡）

イ 畜産関係団体調整機能強化事業

[中畜委託：1,310千円]

(ア) 冠レースでの会長賞授与

第42回すずらん賞（7月・盛岡）及び第45回ビューチフルドリーマーカップ（8月・水沢）

(イ) 畜産フェアにおける県産畜産物加工品配布

400個配布（8月・水沢）

(ウ) 畜産経営相談窓口機能の強化及び相談対応

中央打合せ会及び管理責任者等研修会への派遣 11回

